

スイミングスクールに通う子どもの進級過程と親の子どもへの関わり方の関係性の研究  
A study of promotion process of child who commutes to swimming school  
and relation between how to child for relations of parents

1K07A223-9 森 敦志  
指導教員 主査 堀野博幸先生 副査 土屋純先生

【目的】

私は、コナミスポーツクラブ武蔵浦和で子どものスイミングスクールのコーチのアルバイトを3年間続けている。多くの子ども達、そして、その保護者達と関わってきた。親の姿に対して様々な反応を示す子ども達の様子を見てきた。

子ども達のスポーツ現場を観察すると、時に主役が誰であるのかを疑いたくなることがある。「親の姿は、彼らの有する何らかの要求が動因となり、ひとつの行為として現われたもの」と考える。そして、これらの親の行為に対して子ども達は、様々に動機づけられ、反応を引き起こす(武田ら、2003)」と考えられる。

このように、親の子どもへの関わり方は、多少なりとも、子どものスイミングに対するやる気や、上達するスピードなど、何らかの形で子どもに影響を及ぼしているのではないかと考えることができる。では、親の子どもへの関わりが、子どもに、どのように影響を与えている傾向があるのか。それを、明らかにすることが本研究の目的である。具体的には、保護者の方にアンケートに協力してもらい、スイミングスクールに通う進級スピードの早い子どもの親と、進級スピードの遅い子どもの親では、どのように子どもへの関わり方に違いがあるのかを比較、検討し、考察する。

【方法】

コナミスポーツクラブ武蔵浦和スイミングスクール、キンダークラスに所属する3歳から6歳までの子どもの母親(109人)を対象にアンケートを実施した。

この年代の子どもの母親を対象とした理由は、先に述べたように、子ども向けのスポーツ活動の場合、入会や脱退の権限は、子どもの自発的な意思というよりも、親が決定する場合が多く、その影響力は非常に大きい(金子ら、2008)ということからである。また、子どもに接している時間が1番長いと思われることも母親を対象とした理由である。

【結果】

SPSSを用いて主因子解、バリマックス回転による因子分析を行った。固有値の値が1.0以上を基準に因子を採用した結果、Aグループ、Bグループ共に、7つの因子が抽出された。

第一因子は、支配の要求がその根底にあると推測できる。そこで、「統制」と命名した。第二因子は、子どものパフォーマンスによって、成就の要求を満たし、また、子どものパフォーマンスに対する情動反応を示すことによって、暗に子どもを評価するという行動と解釈し、「情動価値」と命名した。第三因子は、親の子供の様子を観察するという関わり方から、「観察」と命名した。第四因子は、援助する中で、上達を促進する親の関わり方が見られた。この因子を「援助」と命名した。第五因子は、自分の子どもへの褒めるという関わり方から、「褒める」と命名した。第六因子は、スイミングへの関心から子どもとのコミュニケーションの関わり方から、「コミュニケーション」と命名した。第七因子は、子どものスポーツ活動を応援することで、暗に彼らの行動を認めるといった関わり方をしていると解釈し、この因子を「間接承認」と命名した。

【考察】

進級の早いAグループの方が、子どものスイミングスクールの活動に対して、自分の子どもだけでなく、他の子どもへの関心が高かったと言える。幼児がスポーツ活動をする場合には、やはり、親の関わり方によって、伸び方に違いがあることが考えられる。

子どものスポーツ行動の継続や運動・スポーツの実践、体力向上を願うのであれば、保護者は、子どもに対して無関心ではいられない。意識を持つだけでなく、重要なのは「保護者の行動」であり、「子どもとのスポーツ経験である。保護者の行動の結果として、子どものコミットメントが形成され、子どものスポーツ行動が継続化すると強く認識すべきだろう。